公益財団法人SGH財団
第22回市民公開講座

がんと言われた時から

～毎日を健やかに過ごすには？～

がんと診断された時から、さまざまな思いがこみ上げます。
そして、がん治療が終わってからも、
さまざまな思いのなか、長い生活が待っています。
毎日を健やかに過ごすためにどうしたらよいか？一緒に考えましょう！

日時

令和6年 3月3日（日）

13:00開演（15:45閉演予定）

主催：公益財団法人SGH財団　後援：公益財団法人日本対がん協会
協力：SGホールディングスグループ

スケジュール

13:00　開演

主催者挨拶

公益財団法人 SGH 財団理事長
SG ホールディングス株式会社代表取締役会長
佐川急便株式会社会長

栗和田 榮一

第 1 部　講演

がんと診断されてからの日常生活は？
国立がん研究センターがん対策研究所疫学研究部部長
岩崎 基

がん治療中・治療後も仕事を続けるために
日本がんサバイバーシップネットワーク代表理事
高橋 都

がん治療後もより良い生活、快適な毎日を
京都大学医学部附属病院産科婦人科助教
江川 美保

がんと生きるための、こころの持ち方は？
保坂サイコオンコロジー・クリニック院長
保坂 隆

休　憩

第 2 部　パネルディスカッション

モデレーター

京都大学名誉教授
国立病院機構京都医療センター名誉院長
小西 郁生

京都大学名誉教授
宇治徳洲会病院顧問
平岡 眞寛

パネリスト

岩崎 基 | 高橋 都 | 江川 美保 | 保坂 隆

15:45　閉演

コーディネーター　小西 郁生
平岡 眞寛

司会　植月 百枝

講演

「がんと診断されてからの日常生活は？」

国立がん研究センターがん対策研究所
疫学研究部部長

岩崎 基

日常生活における食事や身体活動などの生活習慣や肥満などが、再発や二次がんなどの予後に関係しているのか、という問いは、がんサバイバーの方にとって大きな関心事です。このような予後に関連する因子を明らかにする研究が、欧米諸国を中心に精力的に行われています。ただし、がんのリスク因子を明らかにする研究などと比べると、まだ質・量ともに十分とは言えず、明らかになっていることは多くありませんが、現状のエビデンスをもとに生活習慣において気を付ける点についてお話します。

学歴

平成 10年　群馬大学医学部卒業
平成 14年　同大学院修了（医学博士）

職歴

平成 14年　国立がんセンター研究所支所臨床疫学研究部リサーチレジデント
平成 16年　同センターがん予防・検診研究センター予防研究部研究員
平成 18年　同センターがん予防・検診研究センター予防研究部室長
平成 25年　国立がん研究センターがん予防・検診研究センター疫学研究部部長
平成 28年　同センター社会と健康研究センター疫学研究部部長
令和　3年　同センターがん対策研究所疫学研究部部長

専門医等

社会医学系指導医・専門医
日本疫学会（代議員）、日本癌学会（評議員）、日本がん予防学会（理事）など

講演
「がん治療中・治療後も仕事を続けるために」

日本がんサバイバーシップネットワーク
代表理事
高橋 都

社会の高齢化や治療の進歩にともない、がん診断を受けても働く方々が増えています。最近は、「仕事を辞めて治療に専念する」のではなく「治療と仕事を両立させる」ことが十分可能になってきています。しかし、実際にがん診断を受けると、多くの方が困惑して「もう働けないだろう」と早々に諦めてしまうことが少なくありません。本講演では、実際にがんと診断されたあとの就労継続に向けて、診断直後～休職中～職場復帰後の時系列に沿って、気持ちの持ち方や職場（人事・上司・同僚）とのコミュニケーションのコツを具体的にお話しします。

学歴

昭和 59年　岩手医科大学医学部医学科卒業
平成 12年　東京大学大学院医学系研究科修了（保健学博士）

職歴

昭和 59年　東京慈恵会医科大学附属病院内科研修医
昭和 61年　東京慈恵会医科大学医学部第一内科学講座医員
昭和 62年　立川中央病院医員
平成 11年　東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻 健康学習・教育学分野助手
平成 13年　University of California at Los Angeles, School of Public Health, Visiting Scholar
平成 19年　東京大学大学院医学系研究科 公共健康医学専攻　老年社会科学分野 講師
平成 21年　獨協医科大学医学部公衆衛生学講座　准教授
平成 25年　国立がん研究センターがん対策情報センターがんサバイバーシップ支援部長
令和　元年　岩手医科大学医学部客員教授
令和　2年　NPO法人日本がんサバイバーシップネットワーク代表理事
　　東京慈恵会医科大学医学部客員教授

専門医等

社団法人日本内科学会 認定内科医
日本医師会認定産業医
一般社団法人社会医学系専門医協会 社会医学系指導医・専門医

講演

「がん治療後もより良い生活、快適な毎日を」

京都大学医学部附属病院
産科婦人科助教

江川 美保

卵巣や子宮の生殖機能が備わった女性のからだは生涯にわたりダイナミックに変化し、女性のこころとからだの健康はそれに大きな影響を受けています。卵巣には生まれ持った卵子を保存しながら毎月1個ずつ排卵させるはたらきと女性ホルモンを分泌するはたらきがありますが、がんやがんの治療によりそのような機能が失われてしまう可能性もあります。本講演では、妊娠するための力を保つためにできる最近の方法（妊孕性温存療法）や、女性ホルモンが出なくなった場合の更年期症状への対応などについてお話します。

学歴

平成　6年　京都大学医学部　卒業
平成 17年　京都大学大学院医学研究科　博士課程修了、医学博士

職歴

平成　6年　京都大学医学部附属病院　産科婦人科研修医
平成　8年　国立京都病院　産婦人科レジデント
平成 10年　京都桂病院　産婦人科勤務（副医長）
平成 22年　京都大学大学院学研究科エコチル調査京都ユニットセンター　特定助教
平成 26年　京都大学医学部附属病院　産科婦人科　特定病院助教
平成 30年　より現職

専門医等

日本産科婦人科学会認定産婦人科専門医・指導医、
日本女性医学学会認定女性ヘルスケア専門医・指導医

講演

「がんと生きるための、こころの持ち方は？」

保坂サイコオンコロジー・クリニック
院長

保坂 隆

がんの罹患は、本人・家族にとって大きなストレスになり、頭の中でぐるぐると「ネガティブ思考」の連鎖が広がってしまいます。そこで、どのように気持ちを切り替えて、それを乗り越えていくのかが大きな課題になります。
そこでは単に「ポジティブ思考」ではなく「健全思考」への切り替えが必要で、脳の思考をいったん「俯瞰」してみましょう。そして、ソーシャルサポートの大切さを改めて知り、自分の人生の「方向性」や「価値観」を明らかにし、それを目指して、前向きな行動を始めていきましょう。

学歴

昭和 52年　慶應義塾大学医学部卒業
平成　2年～平成　4年　米国UCLA精神科留学
平成 24年～平成 26年　高野山大学大学院通信制密教学科卒業

職歴

平成 15年　東海大学医学部精神科学教室教授
平成 25年　聖路加国際病院精神腫瘍科部長/リエゾンセンター長兼務
平成 29年　保坂サイコオンコロジー・クリニック院長
　　聖路加国際大学臨床教授、京都府立医大客員教授、を兼任
　　現在に至る

学位

昭和 63年　医学博士（論文名「A型行動パターンの日本的特性」）
平成 26年　修士（密教学）（論文名「空海の精神医学的研究～三度のうつ病発症をめぐって～」）

学会活動

日本総合病院精神医学会の前理事長
日本サインコオンコロジー学会認定登録精神腫瘍医

コーディネーター

京都大学名誉教授
国立病院機構京都医療センター名誉院長

小西 郁生

がんは二人に一人が必ず罹る病気ですが、医学・医療の進歩によって今や三人に二人は治ります。また完全に治らなくても、さまざまなケアによって「がんと生きる」ことが可能となりました。といっても、実際には、がんと言われた時、そして、がん治療が一通り終わった時、これからどう考え、どのように生きたら良いのか？ 深い悩みと問題に直面します。そこで、今回の市民公開講座では、様々の立場の先生方からアドバイスをいただき、皆さまと一緒に、より良い人生を送るための具体的な方法について考えていきます。

学歴

昭和 51年　京都大学医学部卒業
昭和 63年　京都大学大学院医学研究科博士課程修了

職歴

昭和 61年　京都大学医学部附属病院産科婦人科助手
平成　4年　米国アーカンソー医科大学研究員
平成　5年　京都大学医学部婦人科学産科学講師
平成 11年　信州大学医学部産科婦人科学教授
平成 15年　同　附属病院副病院長
平成 19年　京都大学医学研究科婦人科学産科学教授
平成 20年　同　医学部附属病院副病院長
平成 28年　国立病院機構京都医療センター院長
令和　2年　同　名誉院長・特別研究員

コーディネーター

京都大学名誉教授
宇治徳洲会病院顧問

平岡 眞寛

男性の6割、女性の5割が罹るがんは、文字通りの国民病です。このありふれた重い病気になると、患者本人、家族は多くの試練に見舞われることになります。診断を受けた時から、治療を受ける中で、また治療を終了してからも、日常生活の過ごし方、仕事との両立、心の持ち方など、長期にわたって悩みを抱えている人は少なくありません。がん患者が社会と共生して自分らしい生活を保ち、健やかに生きていくかは、国のがん対策の大きな柱の一つです。本市民公開講座では、この問題に長年取り組まれている専門家の先生方のご講演を基に、皆様とともに「がんと言われた時」を考えて行きたいと思います。

学歴

昭和 52年　京都大学医学部卒業
昭和 59年　京都大学大学院医学研究科博士課程修了

職歴

昭和 59年　京都大学医学部附属病院放射線科助手
昭和 62年　米国スタンフォード大学放射線腫瘍科客員助教授
平成　元年　京都大学医学部講師
平成　4年　京都大学医学部助教授
平成　7年　京都大学大学院医学研究科教授
平成 19年　京都大学医学部附属病院がんセンター長 併任（～平成 21 年 5 月）
平成 24年　京都大学産官学連携本部副本部長
平成 28年　日本赤十字社和歌山医療センター院長
令和　4年　同名誉院長、宇治徳洲会病院顧問

司会

フリーアナウンサー　**植月　百枝**

これまでの市民公開講座

第21回「がん免疫療法の進歩 科学的根拠と最新情報」
開催日:令和5年2月23日(木・祝)　オンライン開催

第20回「がんを予防するための最新情報を学ぶ」
開催日:令和4年2月27日(日)　オンライン開催

第19回「ウィズコロナ時代の新たながん医療とは」
開催日:令和3年2月23日(火・祝)　オンライン開催

第18回　「がんゲノム医療について　～精密医療の到来？～」
開催日:令和2年2月24日(月・振休)　会場:ナレッジキャピタル コングレコンベンションセンター(大阪市)

第17回「がんとともに生きる　～患者に寄り添う医療とは？～」
開催日:平成31年2月24日(日)　会場:ナレッジキャピタル コングレコンベンションセンター(大阪市)

第16回「こんなに進んだ！肺がん治療の最前線」
開催日:平成30年2月18日(日)　会場:ハービスOSAKAハービスHALL(大阪市)

第15回「こんなに進んだ大腸がん診療！」
開催日:平成29年2月26日(日)　会場:ナレッジキャピタル コングレコンベンションセンター(大阪市)

第14回「泌尿器科がん:診断・治療の最前線」
開催日:平成28年2月21日(日)　会場:新大阪イベントホール　レ ルミエール(大阪市)

第13回「こんなに進んだ乳がん治療！」
開催日:平成27年3月15日(日)　会場:大阪国際会議場(大阪市)

第12回「輝いて生きる」
開催日:平成26年2月16日(日)　会場:よみうりホール(東京都千代田区)

第11回「がんと人生」
開催日:平成25年3月24日(日)　会場:有楽町朝日ホール(東京都千代田区)

第10回「子宮がんの予防と治療」
開催日:平成24年3月20日(火・祝)　会場:国立京都国際会館(京都市)

第 9 回「乳がんの治療と診断」
開催日:平成23年3月27日(日)　会場:京都大学 時計台ホール(京都市)

第 8 回「集中的がん治療　～治療成績向上を目指したチーム医療～」
開催日:平成22年3月28日(日)　会場:京都大学 時計台ホール(京都市)　共催:文部科学省がんプロフェッショナル養成プラン

第 7 回「がん治療最前線　～大きく変わるがん治療(薬物、放射線、外科治療)～」
開催日:平成21年3月22日(日)　会場:東海テレビ テレピアホール(名古屋市)　共催:NPO法人日本臨床腫瘍学会

第 6 回「府民とともに考える京都のがん医療」
開催日:平成20年2月2日(土)　会場:京都産業会館 シルクホール(京都市)　共催:京都新聞社

第 5 回「大腸がんの最前線」
開催日:平成19年3月17日(土)　会場:京都市北文化会館(京都市)

第 4 回「肺がんの最新情報」
開催日:平成18年3月25日(土)　会場:京都産業会館 シルクホール(京都市)

第 3 回「がんの予防と胃癌治療の最前線」
開催日:平成17年2月26日(土)　会場:京都会館第二ホール(京都市)

第 2 回「前立腺がんの最新情報」
開催日:平成16年3月20日(土・祝)　会場:国立京都国際会館(京都市)

第 1 回「乳がんの最新情報」
開催日:平成15年2月1日(土)　会場:京都市北文化会館(京都市)　共催:京都新聞社

がんに打ち勝つ、未来のために。

公益財団法人SGH財団は、
がんに関する研究、並びにがん看護に関する
研究・実践開発に対して、助成・褒賞を行っています。

がん研究振興事業

SGH特別賞
がんの基礎・臨床研究に顕著な功績を挙げ、
かつ今後の発展が期待される方を対象に、
表彰を行っています。

SGH看護特別賞
がん看護に関する先駆的な研究並びに実践を
行うことにより、わが国の医療の発展・向上に寄与し、
その業績が顕著で、かつ今後の発展が期待される
個人または団体を対象に表彰を行っています。

SGHがん研究助成
がんの基礎及び臨床における優れた研究を対象として、
若手研究者の育成を目的に、
平成元年度から助成を行っています。

SGHがん看護研究助成
がん看護に関する優れた研究並びに臨床における
新しい取り組みを対象として、
看護実践の発展に寄与することを目的に、
令和元年度から助成を行っています。

留学生奨学事業

日本の大学に在学する東南アジアからの
私費外国人留学生に
奨学金支援を行っています。

奨学金支援（給付型奨学金）
奨学生交流支援
・卒業奨学生同窓会　・奨学生交流会

国際経済協力事業

物流に関する高度教育機関への
専門家派遣や研修生を受け入れ、
人材育成を行っています。

物流人材育成支援
・研修生受け入れ　・物流集中講議の実施

公益財団法人SGH財団
〒600-8009京都市下京区函谷鉾町79ヤサカ四条烏丸ビル9階　TEL:075-255-9310　FAX:075-255-9311
https://www.sgh-foundation.or.jp